



**あなたは どう選ぶ?**

**英語教室 ABC**

ベーシックなものから、今どきの英語教室まで、タイプにあった教室を探してみよう!

**※1 大手チェーン英語教室**

英語の授業や受験にも十分対応できるレベルが目標とされており、テキストも充実。TOEICなどの試験対策も熱心です。

**※2 地域密着英語教室**

個人で経営されている英語教室。地域ならではのアットホーム感が魅力。スタイルはさまざまなので体験入学で感触を確かめるのが大切。

**※3 ホッピングリッシュ**

趣味(ホビー)と英会話(イングリッシュ)を融合させた新しいスタイルの英語教室。サッカーや絵画などを英語で教えるので、英語以外のスキルも身につけ、楽しみながら学ぶことができます。

**※4 オンライン英会話**

インターネットを使って、自宅で英語教師とマンツーマンの授業を受けられます。親が送り迎えする手間もなく、授業時間もその都度調整でき、比較的安価にはじめられるのもポイント。パソコンがなくても、スマートフォンやタブレットで受講可能。

参照:オリコン日本顧客満足度調査「英会話トレンド&コラム特集」  
([http://juken.oricon.co.jp/rank\\_english/trend-column/](http://juken.oricon.co.jp/rank_english/trend-column/))

「外国語」  
「話す」  
「聞く」  
「読む」  
「書く」  
が話せるようになるのがなかなか難しく、  
「今までの英語教育を見直し」誰かが英語  
を使って世界へ羽ばたき、色々なことにチャ  
レンジできるようになるのが、親が込められて  
います。

●英語教育

中学校では  
英語の授業を  
英語で実施

高校では  
英語で討論する  
授業が急増

教科化に備え、低学年からの英語教育が必須に!

|          |           |           |         |
|----------|-----------|-----------|---------|
| 2017年度以降 | 外国語授業(必修) | 外国語活動(必修) | 外国語(選択) |
| 2017年度以前 | 外国語活動(必修) | 外国語(選択)   | 外国語(選択) |
| 2020年度   | 外国語活動(必修) | 外国語(必修)   | 外国語(選択) |

**きちんと知りたい、  
子どもの英語教育**

中央教育政策研究所がまとめた「子どもの英語教育」に関する調査結果を踏まえ、2017年度以降の学習指導要領(英語)の改訂が、2020年度以降の学習指導要領(英語)の改訂に大きく影響を及ぼすことが予想されています。



今回のまとめ

**覚える英語から  
「使える英語」  
のための授業に**